

3. 授業改善アンケート調査結果

【2011 年度 前期 授業改善アンケート調査結果】

3-1. 授業改善アンケートの概要（2011 年度 前期）

人間科学研究科では、平成 16 年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケート調査を実施している。平成 22 年度後期より実施方式を大幅に改訂し、全科目を対象に授業内でアンケート用紙を配布・回収する方式から、講義科目のみを対象に、学務情報システム KOAN を利用して Web 上で回答する方式に変更した。質問項目も刷新し、また英文を併記して留学生も回答しやすいようにした。実施期間は以下の通りである。

2011 年度前期アンケート回答期間：平成 23 年 7 月 25 日～7 月 31 日

2011 年度前期アンケート回答期間（集中講義 A）：平成 23 年 8 月 12 日～8 月 19 日

（集中講義 B）：平成 23 年 9 月 16 日～9 月 23 日

（集中講義 C）：平成 23 年 9 月 30 日～10 月 7 日

対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳は、以下の通りである。受講登録者数に対する回収率は 45.8%である（なお、受講登録者数は受講者数の実態が反映されたものではない）。

平成 23 年度前期授業改善アンケート対象科目数・回答数

学部			大学院			
	対象 科目数	回答数		対象 科目数	回答数	
基礎科目	8	715	共通科目	3	28	
共通科目	3	30	先端人間科学科目	4	8	
行動系科目	16	167	行動学系科目	12	64	
社会系科目	15	260	社会学系科目	10	58	
教育系科目	12	190	人間学系科目	7	16	
グローバル系科目	12	123	教育学系科目	17	95	
			グローバル人間学系科目	13	67	
学部計	66	1485	大学院計	66	336	
				計(大学院+学部)	132	1821

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされ、個別の授業の改善に役立てられている。さらに、平成 22 年度後期より、アンケート結果がより授業に反映されるよう、担当講師からアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの提出を求めている。

3-2. 授業改善アンケートの結果（2011年度 前期）

ここでは、平成23年度前期の授業改善アンケートの結果を示す。ただし、自由回答項目は除いてある。

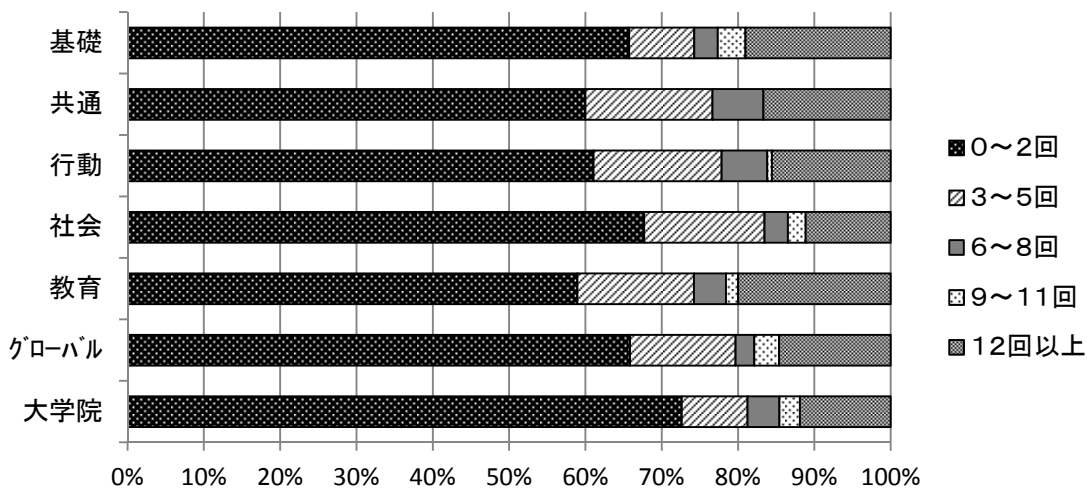
集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。「基礎」は豊中キャンパスで開講される「人間科学概論」等の基礎科目、「共通」は人間科学部での共通科目である。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。なお、各学系によって1科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

平成23年度前期では、授業全体に対する評価を5段階で尋ねる設問12「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」の回答の平均値が3.81であった（数値が高いほど高評価）。平成22年度後期の平均値3.95に比べるとわずかに低下しているが、回答数が前回の701から1821に大幅に増加した影響があるのかもしれない。

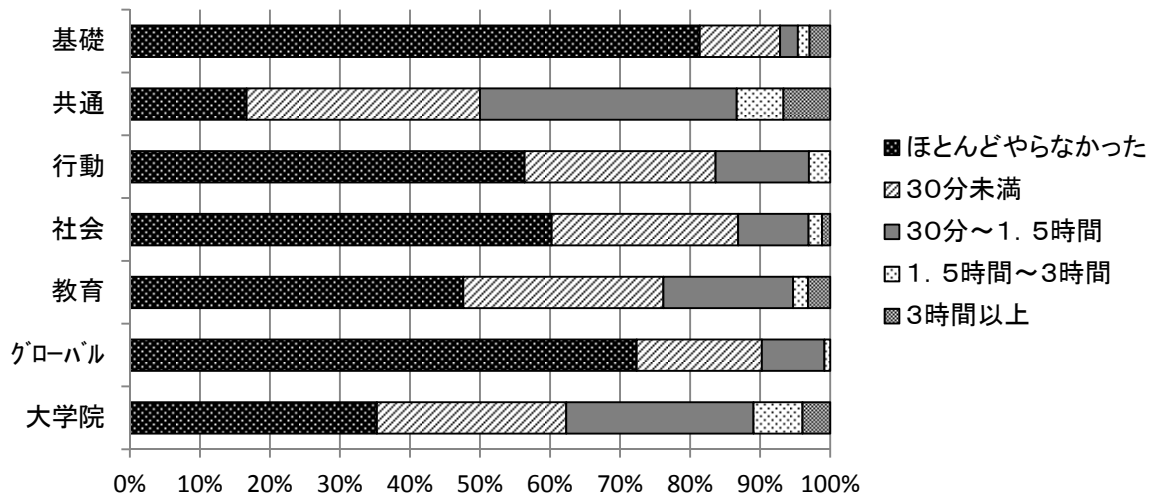
今回のアンケート結果で目立ったのは、学部1～2年生向けに豊中キャンパスで行われる基礎科目への評価の低さである。とりわけ、設問9「授業の進め方について、以下の点で気になったことがあれば、該当する項目にチェックを入れてください」では様々な項目でチェックを入れた人の数が飛び抜けて多い。もっとも基礎科目は他の科目群に比べて回答数が3～4倍多いことの影響があるが、回答数の違い以上に不満が表れている傾向がある。板書やプロジェクタの見にくさや声の聞き取りづらさは、基礎科目の授業が大教室で行われることに起因している面もあるだろう。また、成績評価基準の説明不足を指摘する声も多い。自由記述の回答の中には、シラバスの記述も含めて成績評価基準に関する不満が書かれたものが、基礎科目に限らず複数あった。学生の関心が高い事項だけに、十分な説明と厳格な運用が求められることがうかがえる。前期の1年生向けの基礎科目は、学生が大学に入って初めて受講する授業であり、その満足度は以降の学習意欲にも影響すると考えられる。次年度より教務委員会で第Ⅲセメスターのあり方について検討を開始する予定であるが、それが第Ⅰセメスターの状況の改善にもつながることが望ましい。

各設問の結果の詳細は以下の通りである。

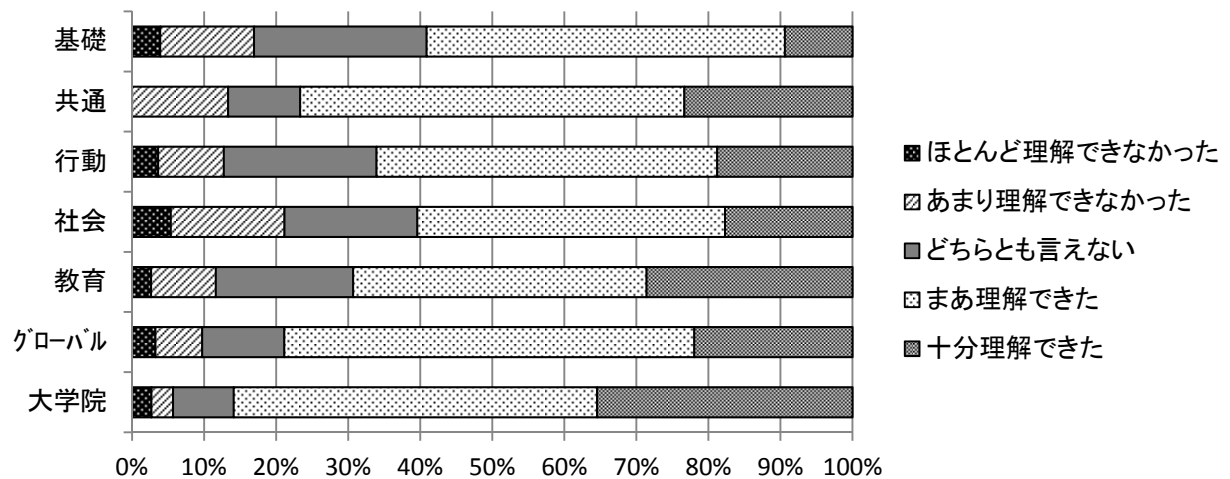
1：この授業を何回欠席しましたか？



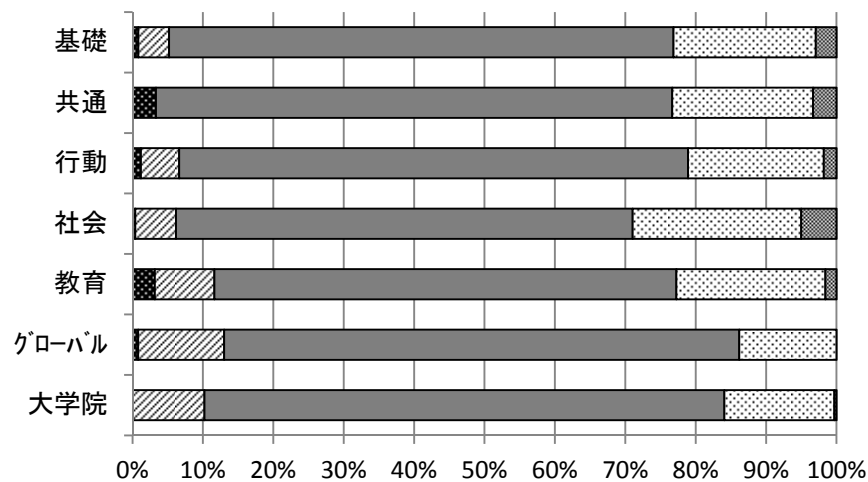
2: この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



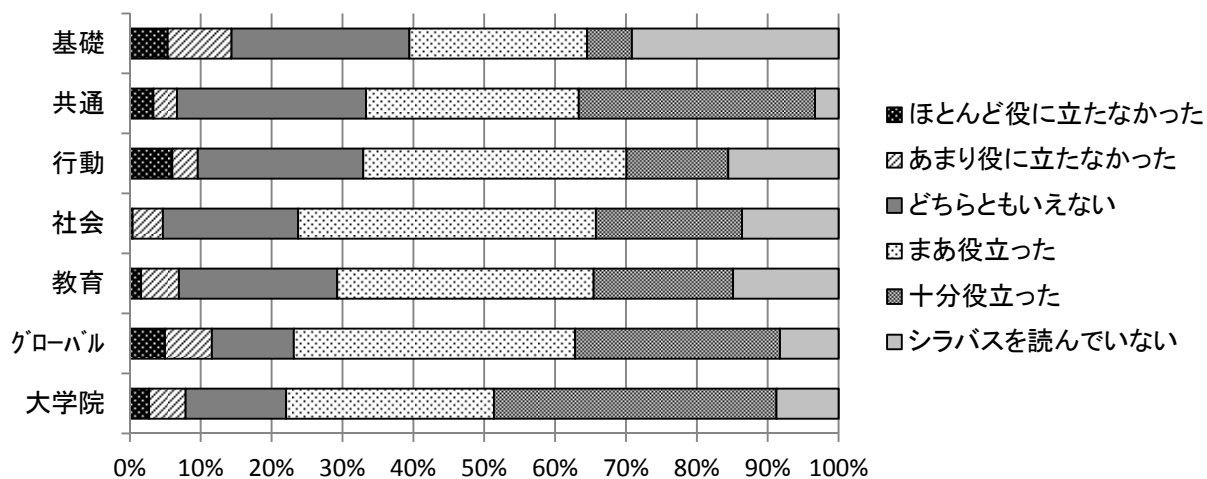
3: 授業内容は理解できましたか？



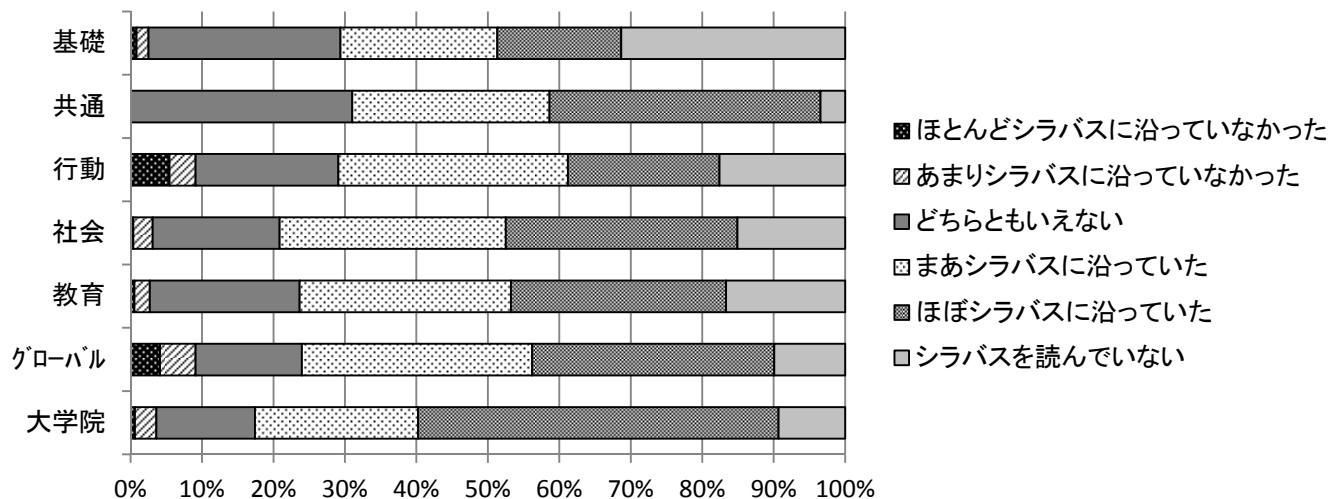
4: 授業内容の難易度はどうでしたか？



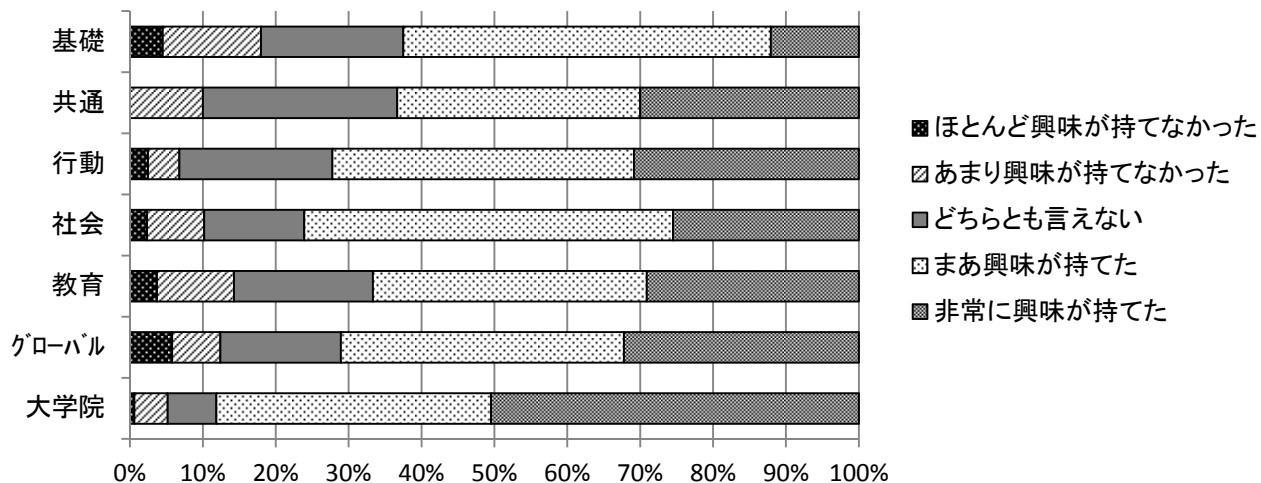
5：シラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



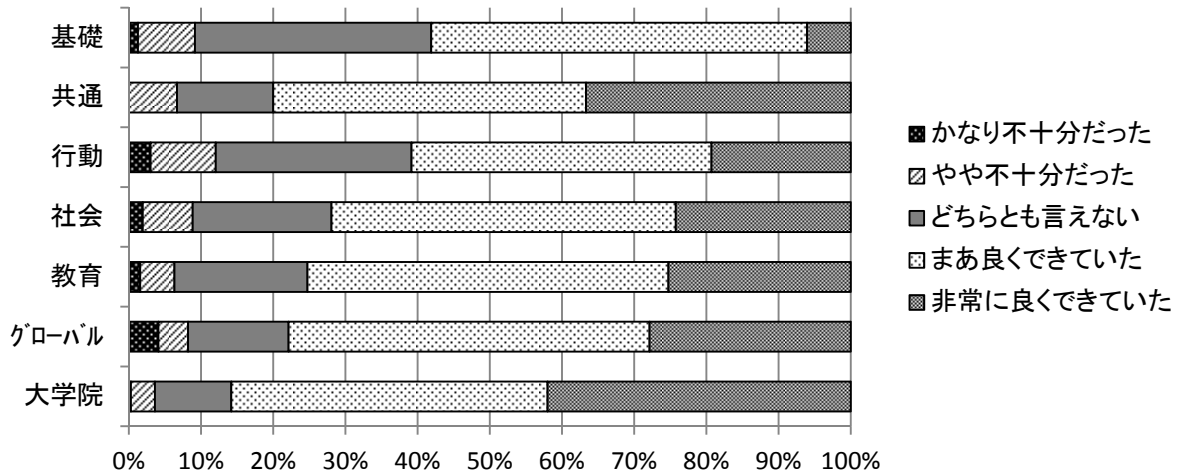
6：授業はシラバスに沿って展開されましたか？



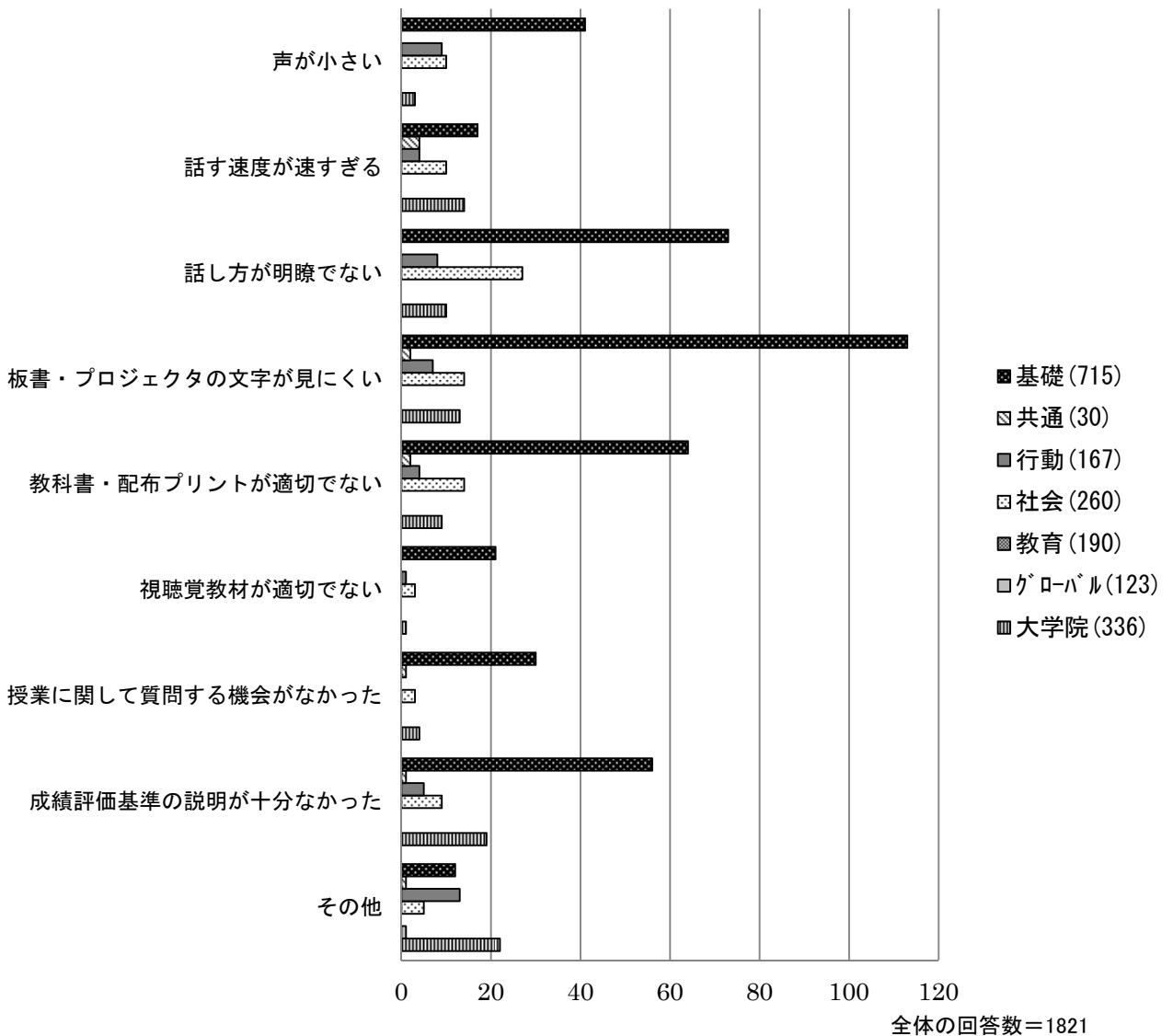
7：授業はあなたにそのトピックに対する関心を引き起こすものでしたか？



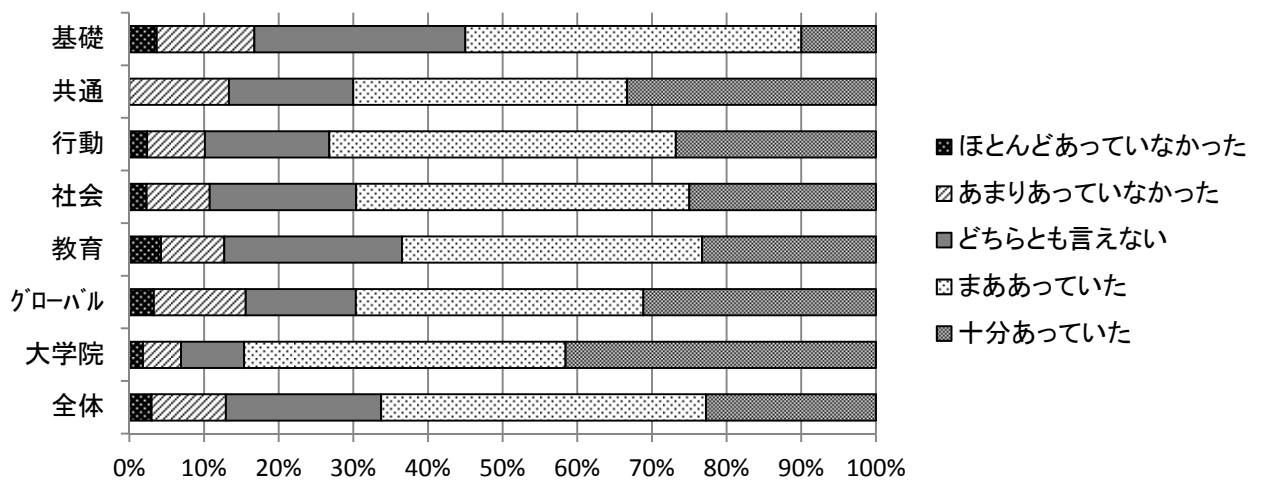
8：授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていきましたか？



9：授業の進め方について、以下の点で気になったことがあれば、該当する項目にチェックを入れてください。[複数回答可] ※数値は回答数。()内の数値は各カテゴリーの回答数。

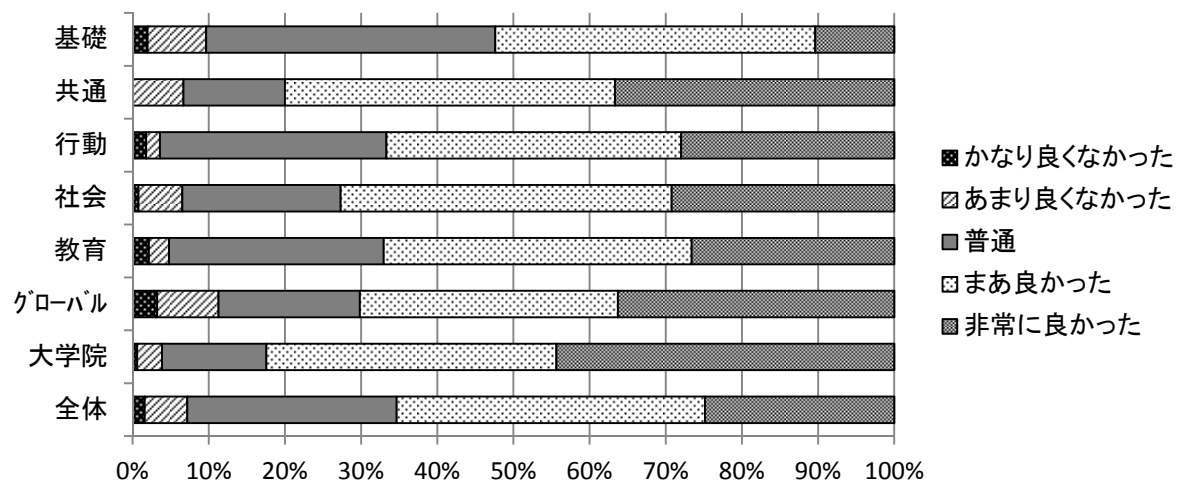


11：この授業はあなたの求めていたものにあっていましたか？



平均値：3.73 標準偏差：1.01

12：この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



平均値：3.81 標準偏差：0.92

問 12 より学部講義科目に関する満足度の結果を示す（回答者が 10 名以上の科目のみ）。大学院開講科目については回答数が少ないため全て対象から除外した。回答数とは質問 12 に回答した人数を示し、平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味している。

2011 年度前期に開講された学部のアンケート対象科目 66 科目のうち、回答数が 10 以上の科目は 34 科目で、そのうち平均値が 4 以上の科目は以下の 13 科目であった。

2011 年度前期 学部講義科目 満足度の平均値が 4 以上の科目

	回答数	質問12 平均値
実践的文化交流 I	16	4.69
比較行動学	17	4.59
紛争復興開発論 I	14	4.50
社会データ科学	26	4.35
宗教社会学	35	4.29
比較社会学	26	4.27
教育工学II	15	4.20
国際社会開発論 I	10	4.10
文化社会学	47	4.09
教育心理学 II	24	4.00
臨床心理学 II	22	4.00
同和教育論	18	4.00
人間科学特殊講義 IV	14	4.00

3-3. 担当教員からのコメント（2011年度 前期）

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である（教員名の五十音順に掲載）。

足立 浩平
心理統計法
統計学はそもそも難しい学問。20パーセントわかればOKという気楽な気持ちが大切です。
統計学A-I（専門基礎教育科目）
統計学はそもそも難しい学問。20パーセントわかればOKという気楽な気持ちが大切です。
行動計量学演習 I（演習）
数理科学の世界と真剣に向かい合うことは、本当に楽しいです。

石井 正子
紛争復興開発論 I・紛争復興開発論特講 I
シラバスがあまり役に立っていないということが分かったので、次期以降は改善したい。大学生と大学院生に同じ内容の授業をすることに困難を感じている。学科の方針によるものであるが、アンケート結果からも「紛争復興開発論 I」と「紛争復興開発論特講 I」に関するかぎり、方針の見直しが必要であるように思われた。

石金直美
臨床心理面接特講 I
大学院に進学したての皆さんが、これから長きにわたる臨床道の第一歩として、とにかく勉強することやいろいろ感じたり考えたりすることへのモチベーションを上げることを目的に、授業するよう心がけました。が、まだまだ工夫の余地があったように思います。今後の臨床実践に、ぜひ活かしてってください。

井上洋一
心理療法特講
精神医学の臨床と心理療法は対象と方法が異なるものであり、しかし共通するところも少なくない。精神医学の臨床を知り、また振り返って心理療法について考える機会として授業を捉え、その視点を持って授業に参加してほしい。たとえ日常会話的に見えても、病理や生活環境への理解を前提とした会話であることを理解することが重要である。評価は出席点が主となる。

井村 修
臨床心理学Ⅱ
発表のグループ分けとテーマの選択は初回学生にお任せしました。たぶん初回出席されなかったのではないのでしょうか。グループの人数の関係もあり2回目以降の受講希望者は指定させていただきました。しかし今後は皆さんの意見を取り入れたいと思います。成績の評価についても初回に行いました。今後は数回行い十分に伝わるようにいたしましょう。
臨床心理面接特講Ⅰ
実習形式の授業ですが事前に資料を配布して予習をしてもらうことも必要かと思いました。
障害児（者）心理学特講Ⅰ
動作法を行っているときは疑問があればすぐにスーパーバイザーに聞いてください。班別のミーティングが短いので個別には聞きにくいのかもかもしれません。スケジュールを考えてみます。全体ミーティングもありますので積極的に利用してください。

大谷 順子
地域秩序論Ⅰ
この講義は学部生に公開するようになってから、バランスに苦労しています。院生はさすがに勉強したくて熱心に来ていますが、学部生の中には熱心な学生と、単位が欲しいだけでまじめでない学生も混ざってくるので、そのことによるクラスの雰囲気の影響に気になりましたが、学部生も、院生並みにプレゼンなどにも参加することは歓迎です。
地域秩序論特講Ⅰ
院生はまじめに受講していたので、授業も進めやすかったです。この講義は学部生に公開するようになってから、学部生の中には単位が欲しいだけでまじめでない学生もいることでのクラスの雰囲気の影響に気になりましたが、さすが、勉強したくて来ている院生は熱心でした。

岡田 千あき
国際社会開発論特講Ⅰ
授業アンケートへの回答をありがとうございました。熱心な受講者が多いという印象でしたが、アンケートの結果からも比較的高いレベルで内容が理解されていたことが分かりうれしく思っています。今年は初めて全ての回でパワーポイントを使用しましたが、その分話す速度が速くなり分かりづらかったようです。来年度以降、パワーポイントの作り方や授業の進度に気を配っていきたいと思います。

苧阪 満里子
心と脳の科学特講義Ⅰ
シラバスの記述が少なかったのですね。質問がある場合には、尋ねてください。
認知脳科学論
アンケート結果を来年度の講義の参考にさせていただきます。

小野田 正利

学校経営学特講

大学院修士課程の10名の学生たちの出席状況はすこぶる良かった。昨年までは、教育改革をめぐる諸問題と、学校と保護者のトラブルの2つのテーマを扱い講義し、15回のうち最後の4回分を、受講者の関心のあるテーマを設定し、ディベート方式で討論する方法をとっていた。今年からは、後者の「学校と保護者のトラブル」だけで15回を組み合わせ、講義部分と討論（1回）、ワークショップ（2種類）を組み合わせ展開した。このテーマは、10年来私が追究しているものであるが、30時間分をおこなうことは一つの挑戦ではあったが、内容的にも組み合わせ的にも十分に効果のあるものだったと手応えを感じている。講話一辺倒ではなく、各種の資料（主として私が執筆した原稿）とDVD教材を組み合わせ活用したことも、それなりに高い評価をえたと考えている。

川端 亮

宗教社会学

最後の試験を受けた人が50人で、アンケートの回答者が30人で、回答率は6割です。回収率を高めるように努力したいと思います。

宗教社会学特講

WebCTを使う授業を目指したが、私がなかなか習熟せず、受講生の皆さんにはご迷惑をおかけしました。いくらかの学生さんは、課題等で授業中以外の時間にも学習をしてもらえたみたいで、良かったです。

吉川 徹

社会データ科学

おおむね納得のいく評価であると思います。出席は合計5回とって、12点ずつ配点しています。出席率が高く、きちんと聞いてくれました。

木前 利秋

環境と社会・環境と社会特講

本講義は多くの教員の協力を得て行われるため、内容の構成にかなりの労力をかけてまいりました。次年度もこの点に新たな工夫を重ね、受講生に満足いくものにしていくつもりです。

木村 涼子
ジェンダー教育学
月曜一限というどちらかといえば敬遠されがちな時間帯であるにもかかわらず、ほとんど欠席せずに熱心に受講してくれた学生が非常に多く、そうした熱心な受講生からの回答結果を真摯に受け止めたいと思います。評価してもらえた点もありますが、問題点の指摘については私自身思い当たることも多く、次年度には改善を志します。特に時間配分の悪さ（アンケート回答にあるように、次回に持ち越す内容が残ってしまうことが何度かありました）については、シラバス作成時から時間内におさまる内容で構成を考えるようにします。また、毎回の感想用紙で意見の吸い上げは心がけましたが、授業時間内での質問の機会をもっと設ける、視聴覚教材をもう少し活用するなど、授業内容にメリハリをつけることも目指したいと思います。
ジェンダー教育学特講
月曜一限というどちらかといえば敬遠されがちな時間帯であるにもかかわらず、ほとんど欠席せずに熱心に受講してくれた学生が非常に多く、そうした熱心な受講生からの回答結果を真摯に受け止めたいと思います。評価してもらえた点もありますが、問題点の指摘については私自身思い当たることも多く、次年度には改善を志します。特に時間配分の悪さ（アンケート回答にあるように、次回に持ち越す内容が残ってしまうことが何度かありました）については、シラバス作成時から時間内におさまる内容で構成を考えるようにします。また、毎回の感想用紙で意見の吸い上げは心がけましたが、授業時間内での質問の機会をもっと設ける、視聴覚教材をもう少し活用するなど、授業内容にメリハリをつけることも目指したいと思います。特講は大学院生対象なので、より詳しい内容を学びたいという場合に役立つ文献や資料の提示を増やすことも考えます。

釘原 直樹
集団力学
このような発表形式の授業は初めての試みであったので、試行錯誤の感は否めなかった。来年度はこの反省の上に立って授業を行いたい。
対人社会心理学特講 I
来年度も資料の選択について工夫をしたい。

熊倉 博雄
行動形態学
講義の冒頭に説明したように、生物系の講義科目が絶望的に少ないため、盛りだくさんな内容になっています。いきおい、講義の進行も早くならざるをえません。今年は少人数だったこともあり、質問機会などを特に設けませんでした（いつでも聞いてもらっていい、くらの人数でした）が、その点は不十分だったかもしれません。
行動形態学特講 I
今後も、受講者との話し合いで、有意義な時間の使い方をしていきたいと思います。

人間科学概論Ⅰ 行動の科学（基礎科目）

Ⅰセメの全員必修の講義ですから、人間の生物学的側面の科学的知見を理解してもらうことに意を用いています。現代生物学の知見なくして、人間の科学的理解はありえません。また、人間科学部では、「心理学」ではなく、「行動学」のカリキュラムを提供しており、「行動」は生物学の概念ですから、概論の最初は生物学的色彩が強くならざるを得ません。一般の心理学の教科書を見てもらっても、そうなっているはずですが、逆に、ⅡおよびⅢセメの行動系提供科目は心理学一色です。その先行科目として位置付けています。

近藤 博之**教育動態学**

内容の説明が十分ではなかったとの指摘がありました。全体の組み立てや時間配分を工夫するなど今後の反省点とします。毎回、質問がほとんど出なかったのもっと悪い評価かと思っていましたが、好意的な評価も一部あり安心しました。受講生の公平さを感じます。レポートは比較的自由に書いてもらいましたが、力作が多かったように思います。

教育動態学特講

学部生が多かったので遠慮したのかもしれないが、授業中に率先して質問してくれたなら全体の理解の助けになったのではないかと改めて思いました。最終的にレポート提出を断念した人が何人かいたのは残念でした。

佐々木 淳**臨床心理学特講Ⅰ**

認知行動療法の導入部分について、一定の理解を促進出来たと考える。本年度の授業では、認知行動療法の考え方や事例概念化になれることを目標としたが、今後はロールプレイに対するフィードバックや受講生同士の議論を通して、理解を深める試みを導入したいと考える。

臨床心理学研究法特講

今年度は、研究法概論・量的研究・質的研究について授業で取り上げた。中でも、使用する可能性が高いKJ法を取り上げて実習を行なったが、来年度は量的研究の実習を含めることによって、両研究法の特徴や利点を実体験から学ぶことが出来るように努めたい。

志水 宏吉**学校社会学**

時間割の関係で、少人数の講義（十数名）が実現することになり、比較的授業の進行がうまくいったと思うし、受講生の満足度も、大人数の講義より高くなったのではないかと推測する（アンケート結果からもそれを知ることができる）。

教育文化学概論

フィールド調査の方法についてのイントロダクション的な授業である。今回は実習的な要素を多く取り入れたため、受講生の満足度は高くなったのではないかと評価する。他方で、学部生（3回生）と院生（主にM1）の双方が出席している授業だったため、どのあたりをターゲットに水準を設定するかについて、若干苦勞するところがあった。それがアンケートの結果にも反映しているように感じられる。

Schwentker Wolfgang**比較思想史**

アンケート評価ありがとうございました。予習復習にあてる時間が少ないように思います。アンケート結果から改善すべき点は、次回の授業で扱う教科書やプリント選びに気を配りたいと思います。

比較思想史特講

アンケート評価ありがとうございました。全体的なアンケート結果に満足しています。

人間科学概論Ⅱ（人間と社会）（基礎科目）

たくさんのご指摘ありがとうございました。特に気になるポイントとして、今回はパワーポイントの使用法を改善すべきだと思います。又、学生においては、予習復習をもっとしてもよいのではないのでしょうか。

Scott North**比較社会学**

学生の参加が授業の原動力ですので良い結果は、学生のお陰だと思います。長らくのご清聴ありがとうございました。

比較社会学特講

It's interesting that the graduate students said they spent more time studying than the undergrads and a higher percentage of grad students said they thought the class was "very good." I wonder if there is a correlation between hours spend studying and overall evaluation of the course?

社会問題の映画の読み方（共通教育系科目）

皆さんのご意見を来年度に計画に活用させていただきたいのです。短い間でしたが、よく頑張りました。どうも、いきいきとした参加ありがとうございました。

鈴木 広和**動態地域論Ⅰ・動態地域論特講Ⅰ**

アンケート結果に、特に要望や不満などは出ていませんが、授業のやり方を工夫して、もっと興味がもてるよう改善することも可能だったと反省しています。講義でとりあげるテーマは、前半と後半で分かれていましたが、前半のテーマについては再考の余地があると感じました。

高田 一宏

コミュニティ教育学特講

回答者が3人と少ないのでコメントは難しいが、授業での受講生とのやりとりから判断するかぎり、内容および難易度は適切だったと思われる。ただし、受講生の顔ぶれを見てから授業で講読する文献を選び直したので、その点で混乱を招いたかもしれない。

辻 大介

コミュニケーション社会学特講

今年度は、講師自身が院生・助手の頃にした論文を主な教材として、どう論文を構想したか、作業はどう進めたか、何に注意したか、等を含めて、修論（やその他の論文）執筆の実践的な助けにもなるようにと考えて、授業を組み立ててみました。初の試みだったこともあり、反省点も多ありますが、次回以降に活かしていきたいと思います。

津田 守

多文化共生社会論 II・多文化共生社会論特講 II

本科目は学部と大学院共通で、ほぼ同人数の計40名弱の登録でした。出席を重視していましたので、毎回30名近い参加がありました。アンケート回答者合計18名の内、3名は「12回以上」、13名が「0-2回」の欠席者でした。授業の進め方について、気になったという回答が分散していましたので、それらを参考に来年度には全員に十分に理解してもらえるよう努力します。全体的には興味を持っていただいたと思います。今学期は予想外のゲストを5名も招くことができ幸運でした。その点、評価をいただいたと同時に、質疑応答の時間やディスカッションをより多く組み込んでいくようなインターラクティブな授業展開が望ましいという認識には共感します。

堤 修三

社会保障政策論 I・社会保障政策論特講 I

受講者にできる限り詳しく知ってほしいと思うあまり、内容が盛りだくさんとなって、十分な資料説明ができなかったり、丁寧な板書ができなかったりしたことは否めない。年間4単位では限界があると思う。毎回、全員の質問・感想に対し回答を書いたが、それも含めての講義と考えてほしい。2学期はオフィス・アワーの活用も考えたい。本講義の受講者が、社会の様々な仕組みについて、メディアなどの表面的な説明に惑わされることなく、自分の頭で考えて正確に理解する癖をつけてくれれば本望である。

中村 安秀
国際協力学Ⅰ・国際協力学特講Ⅰ
「国際協力学Ⅰ」では、34名の受講者のうち、16人からアンケートが寄せられた。シラバスを読んでいない人が2名。「興味をもてなかった」と回答した人が5名。「あなたの求めているものにあっていなかった」と回答した人が6名。「保健医療通訳入門」という講義題目を読まずに、受講したのだろうか? 今後、シラバスの書き方などを工夫していきたい。「国際協力学特講Ⅰ」では、38名の受講者のうち、11人からアンケートが寄せられた。シラバスを読んでいない人が1名。「興味をもてなかった」と回答した人が2名。「あなたの求めているものにあっていなかった」と回答した人が2名。グループごとに輪になっての議論など参加型の授業を求めている声があった。70人を越す大人数の講義ではあるが、来年度は工夫をしてみたい。
人間開発学特講
「オムニバス形式だったので、週によって善し悪しの差が激しかった」という意見を考えると、将来的には、講師ごとの評価が必要とされるかもしれない。他大学でもオムニバス形式の授業評価に関しては、講師ごとの評価を実施している場合もある。
国際健康開発論特講
2名が回答していた。「公衆衛生という授業のコマが入っているとよかった」という意見を参考にして、来年度の予定を考えたいと思います。
医療通訳Ⅰ
授業内容の難易度は、適切とやや難しいが半分ずつ。また、全員が授業内容が理解できたと回答していた。本学で初めての中国語を中心とした医療通訳の講義であったが、学生からの授業評価が高かったため、次年度も、同様の講義を継続したいと考えている。
医療通訳Ⅱ
回答数が少なかったが、また、全員が授業内容を十分理解できたと回答し、内容も適切と回答していた。英語による医療通訳の講義ということで学生の理解度を心配していたが、学生からの授業評価が非常に高く、次年度も、同様の講義を継続したいと考えている。

中山 康雄
言語・情報論
アンケート結果に対するコメントというよりも、筆記試験の結果についてコメントしたい。今回は特に、筆記試験のできに驚いた。示唆的な答えは全体の3分の1程度あった。それらの答えは、哲学的な観点から深く考えたものであり、非常に興味深く読んだ。そのことから、講義をした意味があったように思う。
言語・情報論特講
アンケートの数が少なかったため、明確なことは言えない。しかし、どちらかというと肯定的な結果が出ていた。また授業の参加者の予備知識などの関係で、今回の講義では質問が出るが多かった。これは非常に評価できる点だと思っている。授業の進行に重きをおかず、質問にいていねいに答えるようにしたことがよかったのだと思う。今後も、質問の方に重きを置きたいと思う。

西森 年寿

教育工学Ⅱ・教育工学特講Ⅰ

トピックに対する関心を呼び起こせたかどうか、については比較的低い評価が多いようでした。周辺の学生の意見も聞きつつトピックを練り直したいと思います。自由記述でいただいた、教員が学生の議論にどう割り込むかは、昨年から続く課題です。今年の実験から、より議論の時間をとらないと難しいと感じました（学生同士の議論が飽和してから介入するという方針を重視したいが、飽和まで至るほど時間をとれていないと感じた）。まず来年度は時間配分を見直したいと思います。

Barbara Holthus

人間科学特殊講義Ⅳ

I greatly enjoyed teaching the class and the students. It was challenging to teach in respect to the fact that this class was held completely in English, but the majority of the students were native Japanese speakers, some with limited English abilities which became clearer throughout the semester. Homework load (on the high end, expecting at least one hour of preparation time per week) and speed of class was designed for high English ability, but reduced to a certain degree throughout the semester to adjust to students' learning speed. Overall I am satisfied with the students' evaluations.

檜垣 立哉

哲学的人間学・哲学的人間学特講

時間割の関係か普段の授業の倍近く受講者がいたので、全員の関心を引くというのは困難で、とくに難しかったという声が多かったのは、受講者の多様性を考えるべきであったかとおもう。内容的には興味をもてたということと、それなりの工夫を感じてくれたということで、この点はよかった。毎回の小レポートの結果をみるにおそらく関心をかなりもってくれたひととそうでないひととの違いが大きいかとおもうので、人数が多いときはそれをどう埋めていくのか考えたい。

生命と社会システム特講Ⅳ

アンケートが0件であったのでコメントは難しいのですが、基本的には、現代思想のゼミとかさねるかたちで、ドゥルーズの『シネマ2』の第一章第二章を読み、映像資料をみて分析をかさねました。ドゥルーズの映像論と身体論とのつながりのなかで、より生命と社会システムに関連するトピックを今後入れていければと考えます。

日野林 俊彦

比較発達心理学

青年期発達と青年心理をより区別した講義のほうが良かったかと反省しています。学生の興味は、青年心理のほうにあると思いました。

平沢 安政
人権教育学・人権教育学特講
受講された方から、基本的によい評価をいただけたことをうれしく思いました。授業内容だけでなく、他の受講生たちの発表や意見からもさまざまな気づきを得られたとの声に力づけられました。この授業では、人権教育の基本的な枠組みや概念について異文化間教育学の視点からアプローチし、社会に存在するさまざまな今日的課題とも結びつけて、人権教育のすそ野の広がりに対する認識を新たにさせていただくことを心掛けました。ただ遅刻や欠席者への対応について、改善すべき課題があることをあらためて認識しましたので、今後に生かしていきたいと考えています。

福岡 まどか
地域知識論Ⅰ・地域知識論特講Ⅰ
(1)ディスカッションの機会を設けてほしかったというコメントへの回答です。授業の中では質問の時間や簡単なコメントを言ってもらう時間はとりましたが、たしかにまとまったディスカッションの時間はとりませんでした。ですが、受講生は学部生も大学院生も留学生もいたので、ディスカッションも行ってみたら面白かったかもしれません。今後の参考にさせていただきます。
地域知識論特講Ⅰ
東館516のプロジェクターが見えにくい、ホワイトボードが見にくい、などの点は、今後マーカーを補充する、ブラインドや照明を調節するなどして改善に努めたいと思います。エアコンの設定に関しても、できるだけ授業の快適な環境を作るように努めていきたいと思います。なお、話すのに集中しているところらで気づかない点も多くありますので、授業中に気付いた点はぜひその場でも遠慮せずに指摘していただけたらと思います。

藤岡 淳子
人格心理学特講
参考にします。

藤川 信夫
教育人間学Ⅱ・教育人間学特講Ⅰ
今回の講義は、教授内容、方法両面において、一つの挑戦でしたが、概ね肯定的な評価をいただいていると思う。
子どもの現在（共通教育系科目）
高校生2名が参加する基礎セミナーであるが、講義内容、方法いずれについても、概ね肯定的な評価をいただいていると思う。

藤目 ゆき
多文化共生社会論Ⅰ
学部生は学部生だけを対象にした授業にしたほうが配慮がしやすいと思いました。

多文共生社会論特講 I

大学院と学部の講義をあわせて行うのは難しいと思いました。

宮原暁・木村自

超域地域論 I ・超域地域論特講 I

本講義では「国境」をテーマに、その多様なあり方について事例研究に基づいて考察しました。今日を生きる人々の生活にとって、「国境」の存在が及ぼす影響は決して小さくないということ、しかし、そうした「国境」のあり方は決して一様ではなく、西欧近代がもたらした「国境」を主体的な「国境」に組み替えていく作業が世界のいたるところで見られること、また西欧近代にきわめて類似した「国境」概念がじつは東アジアの近代においても発見できることが、講義を通して明らかとなりました。講義の進め方については、概ね予定通り進めることができましたが、インターラクティブな場面では、やや問いの意図が伝わりにくかった面があるようです。今後は、この点についてもよりわかりやすさに努めたいと考えております。
--

村上 靖彦

行為と倫理特講

熱心に聞いてくださり、議論していただいたので非常に充実していました。

心の世界（共通教育系科目）

レジュメについては今後気をつけます。授業内容は試行錯誤しているうえに、そのつどの研究の進行とシンクロしているので努力します。
--

八十島 安伸

感覚生理学・行動生理学特講 I

少し難しい内容だったかとも思います。多くの受講生が粘り強く話を聴いてくださいました。聞き慣れない細かい専門用語がとても多かったかとも思います。ただ、この問題は当該科目が生物学・医学分野に基づくものであるため避けては通れません。ただ、自分自身や人々の心身の生物学的側面を知ることは意義があると考え、講義を開講しています。今年度は、補足的説明に比較的時間を割いたので、シラバスの計画には時間が足りませんでした。講義内容を見直す必要も感じました。予習や復習がほとんどなかったとの回答が多かったのですが、この講義が関連した書籍や専門書を読むきっかけとなって欲しいです。ポートフォリオに質問を書いてくれた受講生が多くいたので、質問や疑問は必ずあるのだと思います。それを講義中にも発言してもらいたいです。そうすれば、質問とそれへの回答がその場で他の受講生にも共有でき、また、深い議論へと発展する可能性があるのです。双方向の議論は大歓迎です。この科目を通じて感覚・知覚の神経メカニズムとそれらに根ざした心身の不思議さを今一度考える機会を持ってもらえるとうれしいです。
--

山田 一憲

比較行動学・比較行動学特講I

この講義の目標は、進化の機構とTinbergenの4つの問いを理解してもらうことでした。期末試験の解答を見る限り、これらの目的は、ほぼ達成することができたようです。授業アンケートの総合満足度の集計を見ても、ひとまず及第点を頂いたと理解しています。授業アンケートで得られたコメントに対して回答します。

>もう少しテーマを絞ってほしかった

この講義では、進化の説明に多くの時間を割きました。取り上げたのは、むしろ、非常に限られたテーマです。ひょっとしたら、特定の分類群（例えば霊長類）に限った講義を期待していたのでしょうか？ 進化という全ての生物に共通する現象を説明する際に、特定の分類群に限定して話するのは、その魅力を大きく減じると、私は思います。ヒト以外の多様な動物の進化について学ぶことは、ヒトが行動し生きる理由を考える上で欠かすことができません。

>もっと先生と学生との双方向のやり取りがあったら盛り上がったのでは

小レポートや授業中に皆さんの意見を問うような機会をもっと増やした方が良かったのかも知れません。今後の改善点にしていきたいと思います。

山中 浩司

文化社会学

アンケートについては回答率は45%と比較的高く、受講生に注意を促したのがある程度功を奏した。アンケート結果から、いくつか改善を検討している。時間の配分をもう少し余裕のあるようにし、学生とのコミュニケーションを増やすようにしたい。講義室が横長のため、スライドが見にくい場合があるようだ。受講生が多いため、実施できないているが、できればディスカッションの時間を設けて、受講生の参加機会を増やしたい。

文化社会学特講

アンケートについては回答率は60%と比較的高く、受講生に注意を促したのがある程度功を奏した。アンケート結果から、いくつか改善を検討している。時間の配分をもう少し余裕のあるようにし、学生とのコミュニケーションを増やすようにしたい。講義室が横長のため、スライドが見にくい場合があるようだ。受講生が多いため、実施できないているが、できればディスカッションの時間を設けて、受講生の参加機会を増やしたい。

社会環境学概論（基礎科目）

複数の教官が担当するオムニバス形式の授業は、授業内容を明確にすることがむずかしく、学生からの要望に合わない面も指摘されている。今年度のアンケート結果は比較的良好だったが、いくつか改善を検討したい。内容については、教官の研究の紹介よりも、むしろ基礎的な知識の整理に重点をおくようにつとめたい。時間の配分については担当教員に注意を促したい。また、試験中の不適切な状況もあったようで、この点も改善したいと考える。

【2011 年度 後期 授業改善アンケート調査結果】

3-4. 授業改善アンケートの概要（2011 年度 後期）

人間科学研究科では、平成 16 年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケート調査を実施している。平成 22 年度後期より実施方式を大幅に改訂し、全科目を対象に授業内でアンケート用紙を配布・回収する方式から、講義科目のみを対象に、学務情報システム KOAN を利用して Web 上で回答する方式に変更した。質問項目も刷新し、また英文を併記して留学生も回答しやすいようにした。実施期間は以下の通りである。

2011 年度後期アンケート回答期間：平成 24 年 1 月 30 日～2 月 6 日

対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳は、以下の通りである。受講登録者数に対する回収率は 29.9%である（なお、受講登録者数は受講者数の実態が反映されたものではない）。

平成 23 年度後期授業改善アンケート対象科目数・回答数

学部			大学院		
	対象 科目数	回答数		対象 科目数	回答数
基礎科目	4	140	共通科目	2	8
共通科目	6	16	先端人間科学科目	2	2
行動系科目	12	226	行動学系科目	10	34
社会系科目	13	230	社会学系科目	7	5
教育系科目	11	237	人間学系科目	7	13
グローバル系科目	8	32	教育学系科目	8	23
			グローバル人間学系科目	8	11
学部計	54	881	大学院計	44	96
計(大学院+学部)				98	977

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされ、個別の授業の改善に役立てられている。さらに、平成 22 年度後期より、アンケート結果がより授業に反映されるよう、担当講師からアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの提出を求めている。

3-5. 授業改善アンケートの結果（2011年度 後期）

ここでは、平成23年度後期の授業改善アンケートの結果を示す。ただし、自由回答項目は除いてある。

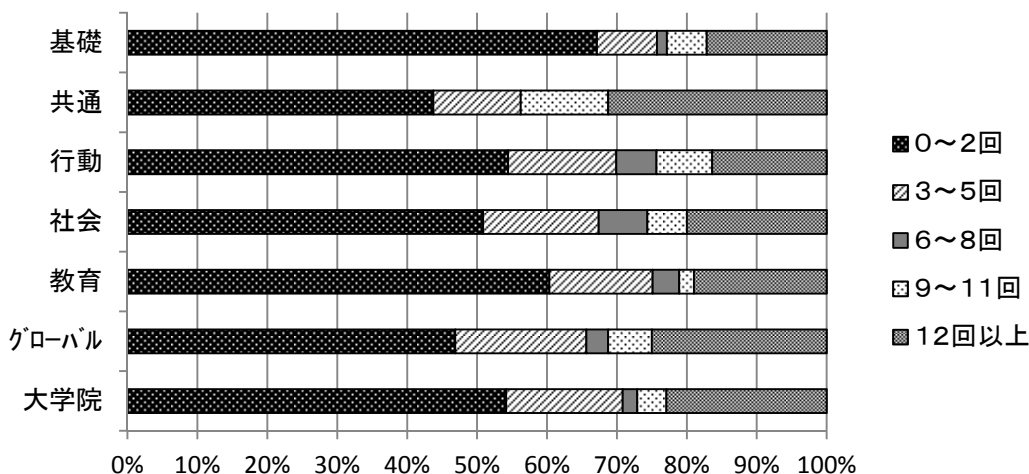
集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。「基礎」は豊中キャンパスで開講される「人間科学概論」等の基礎科目、「共通」は人間科学部での共通科目である。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。なお、各学系によって1科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。また、今回のアンケート結果では、対象の授業を12回以上欠席しているにもかかわらずアンケートに回答した人が全体の19.1%もいる。これを受けて、2012年度前期より、途中で受講を断念した科目については回答しなくてよいとアンケート画面に明記するようにした。また、設問では欠席回数を尋ねているが、出席回数を回答すると勘違いしている学生が存在する可能性もある。そのため、2012年度後期より設問文の変更を予定している。

平成23年度後期では、授業全体に対する評価を5段階で尋ねる設問13「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」の回答の平均値が3.94であった（数値が高いほど高評価）。前期の平均値3.81より若干上昇している。今回とおおむね同じ科目を対象とした平成22年度後期の平均値は3.95で、ほぼ同じ数値が出ている。

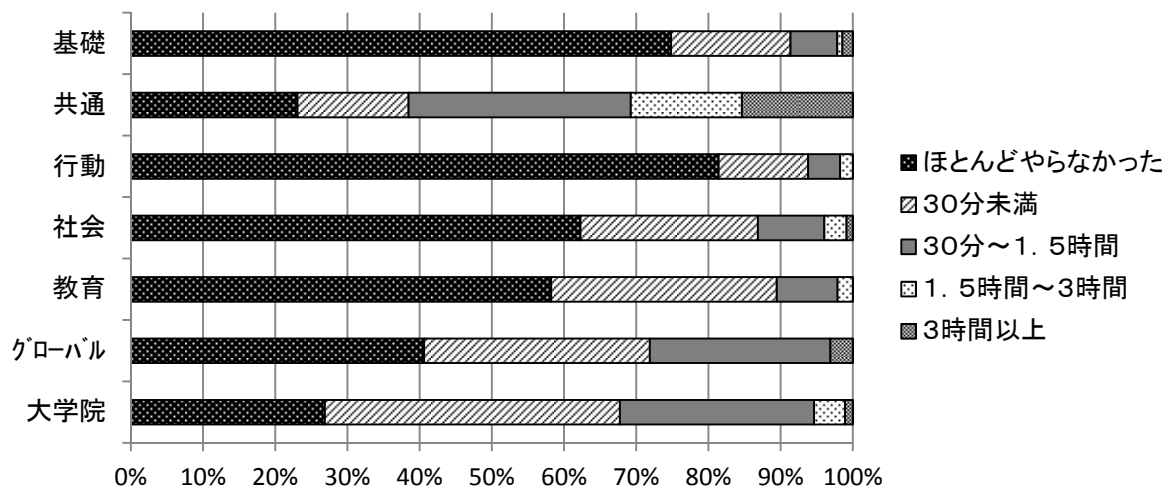
今回のアンケート結果では、設問5「シラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？」において、「十分役立った」・「まあ役立った」という回答が今年度前期の50.2%から57.6%に増加した。平成22年度後期の際は「どちらともいえない」という選択肢がなかったため（平成23年度前期より追加）単純な比較はできないが、この設問に対して「十分役立った」・「まあ役立った」と回答したのは51.3%であった。人間科学部では、今年度より「自主的学習を促すシラバス作成指針」に沿ってシラバスを作成するようにしたが、その結果としてシラバスの内容がより学生にとって役立つものに改善されてきているのかもしれない。

各設問の結果の詳細は以下の通りである。

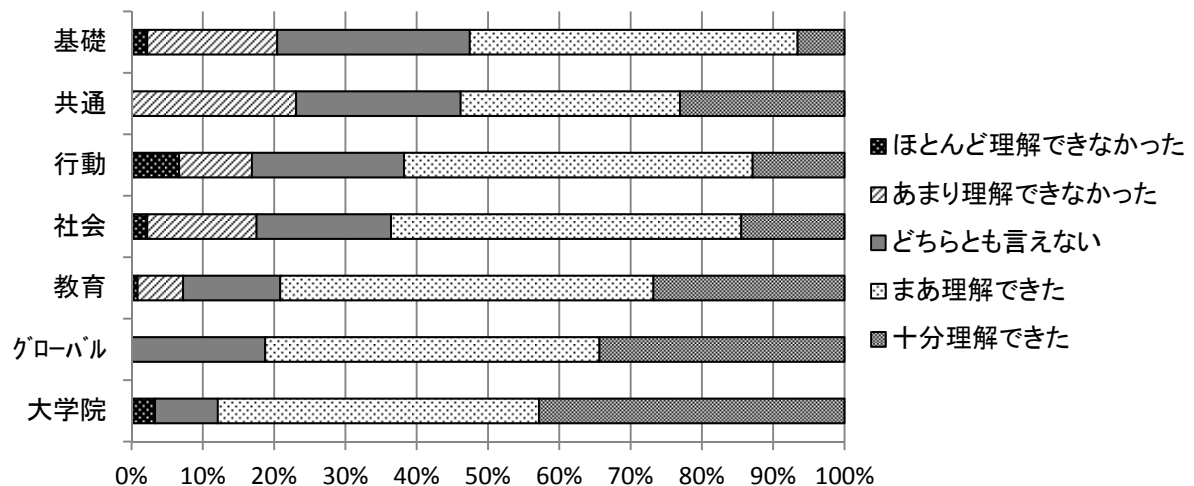
1：この授業を何回欠席しましたか？



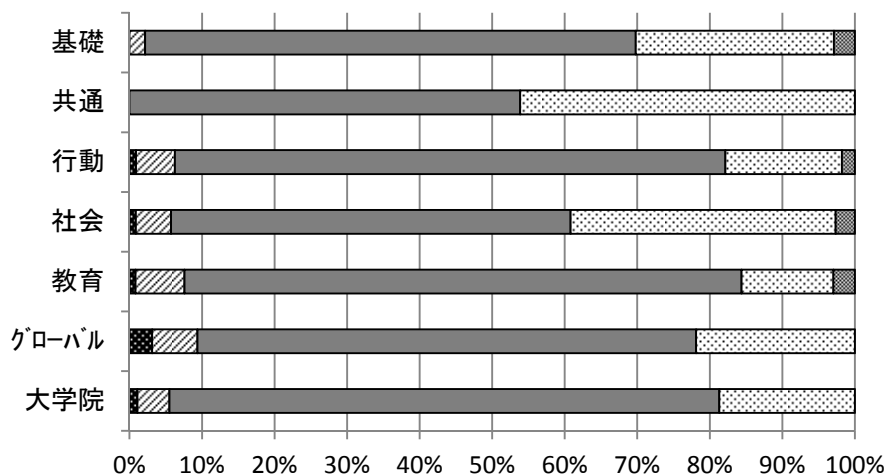
2: この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



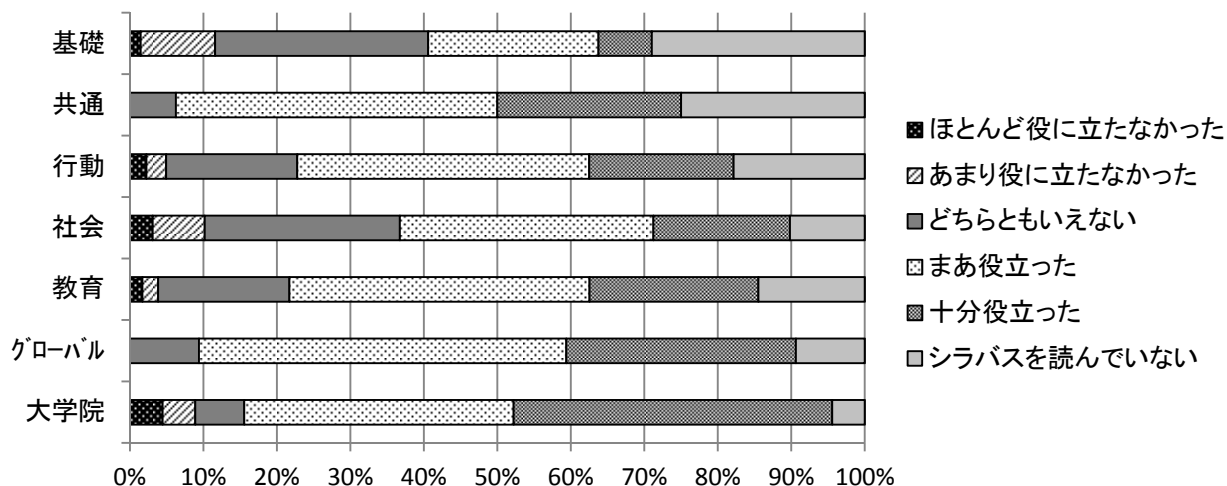
3: 授業内容は理解できましたか？



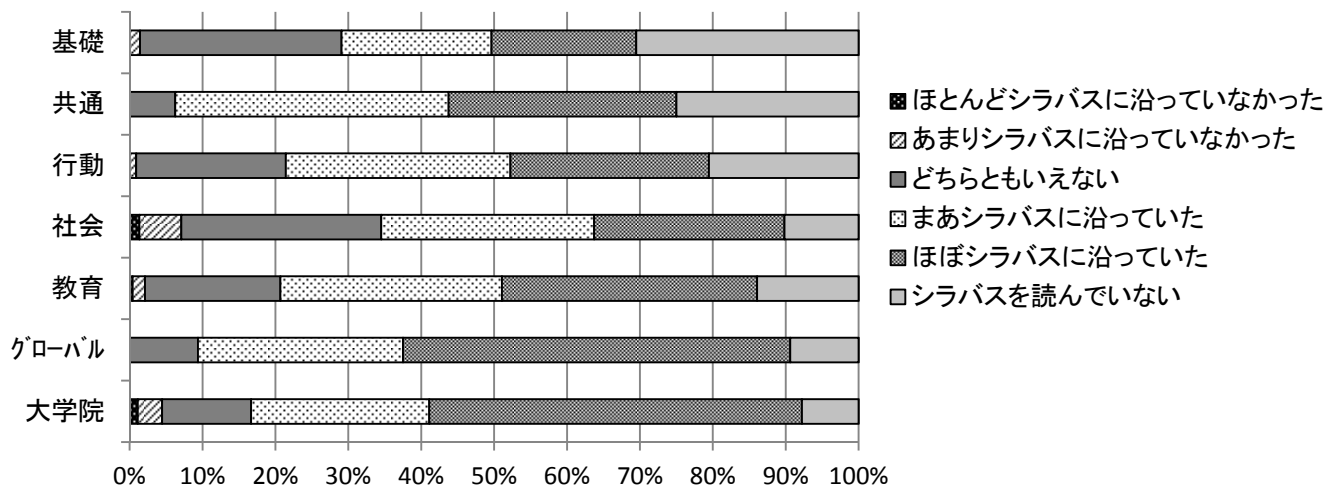
4: 授業内容の難易度はどうでしたか？



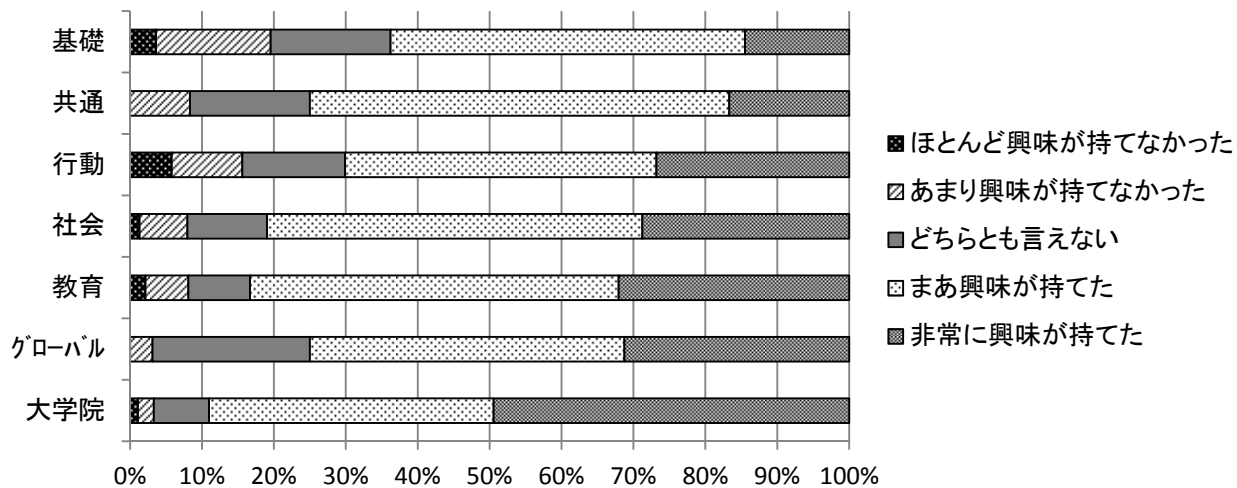
5：シラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



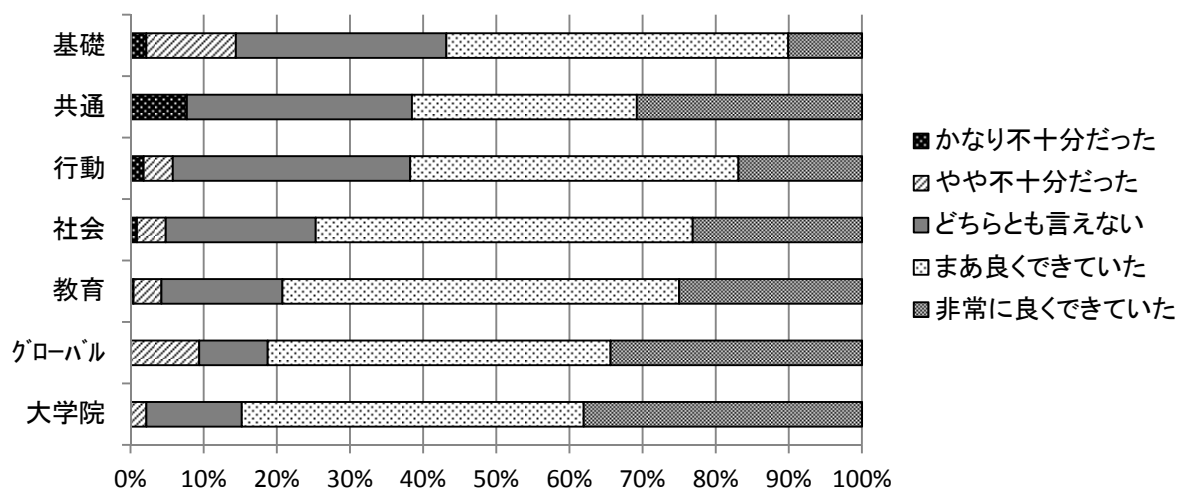
6：授業はシラバスに沿って展開されましたか？



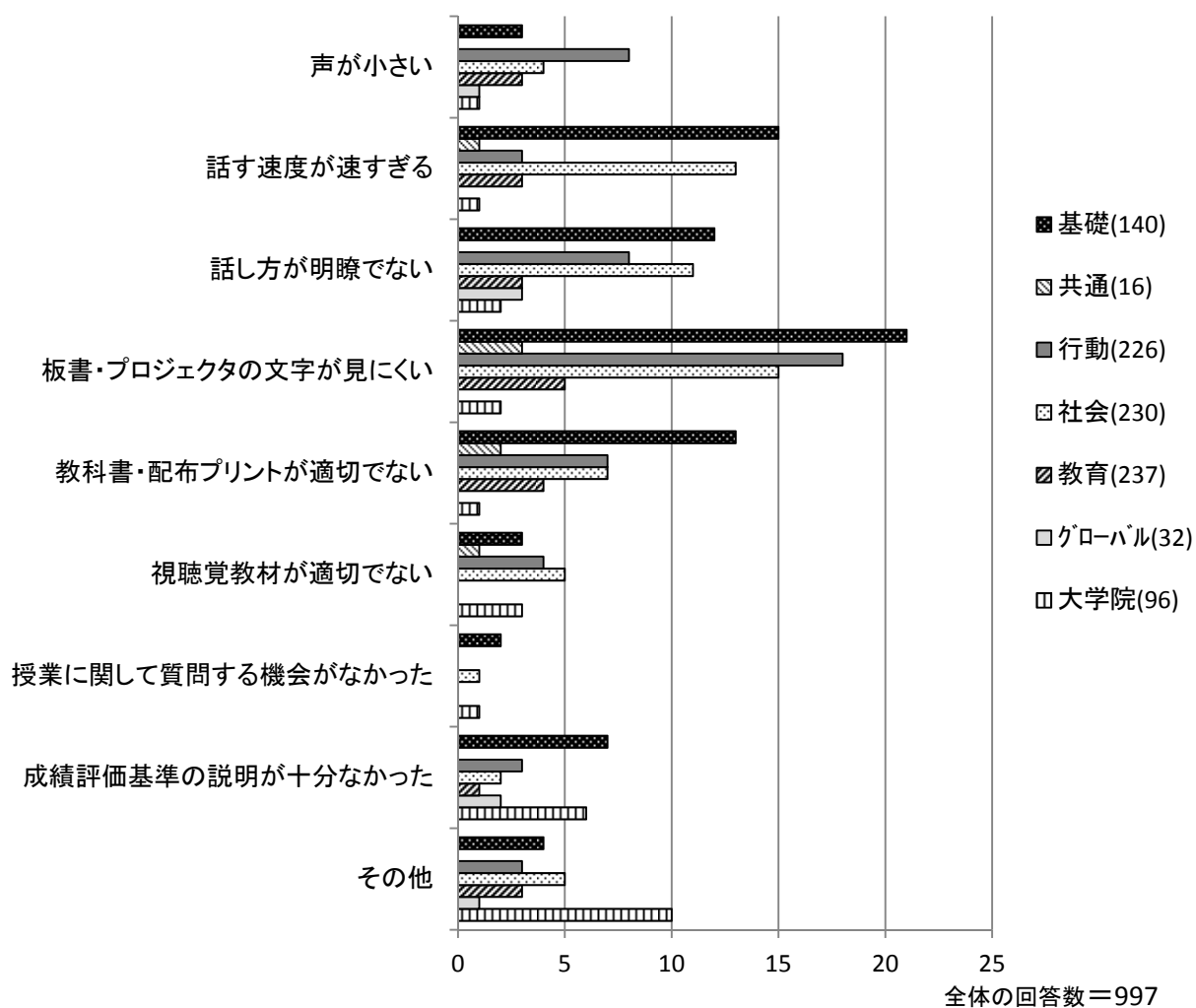
7：授業はあなたにそのトピックに対する関心を引き起こすものでしたか？



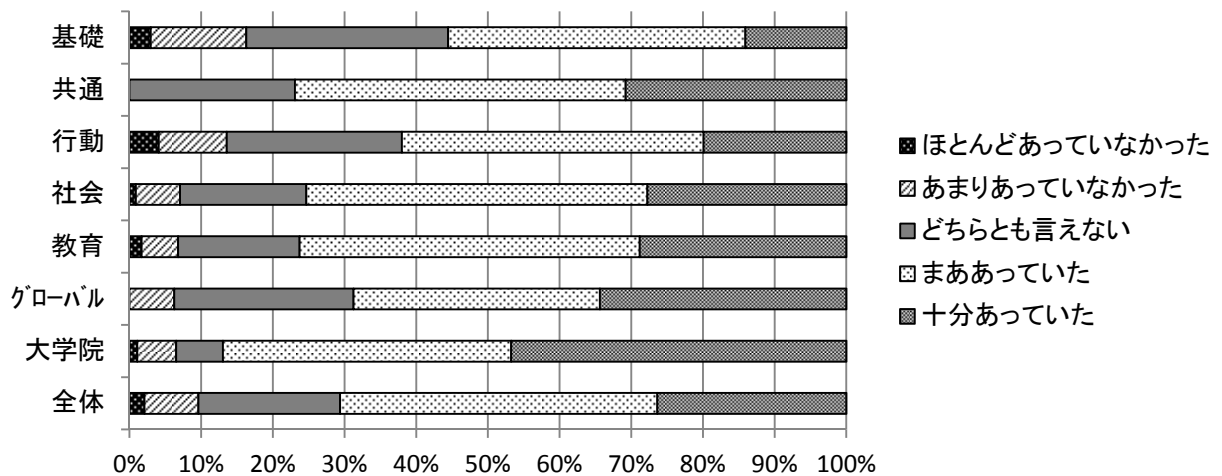
8：授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていきましたか？



9：授業の進め方について、以下の点で気になったことがあれば、該当する項目にチェックを入れてください。[複数回答可] ※数値は回答数。()内の数値は各カテゴリーの回答数。

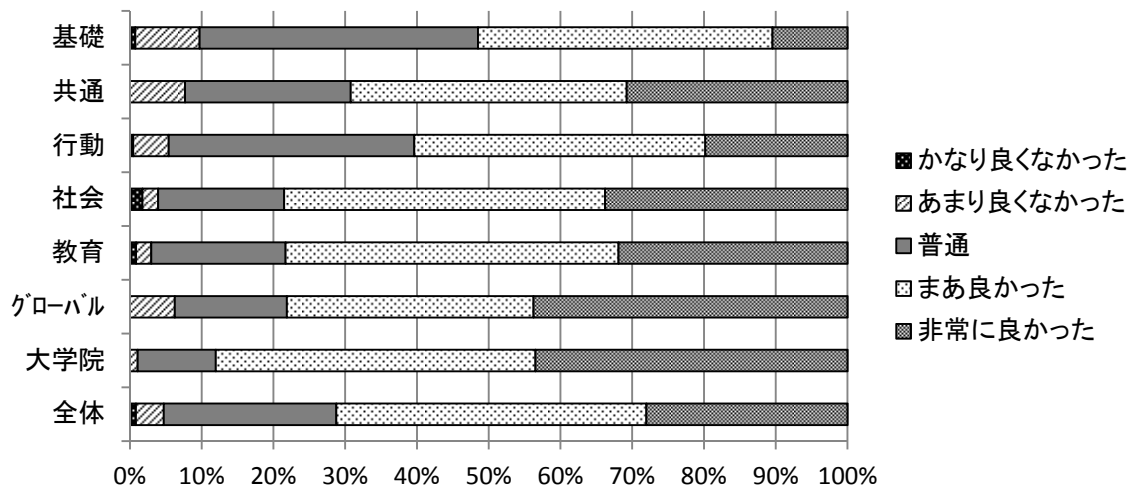


12：この授業はあなたの求めていたものにあっていましたか？



平均値：3.85 標準偏差：0.96

13：この授業は全体として良い授業だと思えますか？



平均値：3.94 標準偏差：0.86

問 13 より学部講義科目に関する満足度の結果を示す（回答者が 10 名以上の科目のみ）。大学院開講科目については回答数が少ないため全て対象から除外した。回答数とは質問 13 に回答した人数を示し、平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味している。

2011 年度後期に開講された学部のアンケート対象科目 54 科目のうち、回答数が 10 以上の科目は 35 科目で、そのうち平均値が 4 以上の科目は以下の 15 科目であった。

2011 年度後期 学部講義科目 満足度の平均値が 4 以上の科目

	回答数	質問13 平均値
実践的文化交流 II	11	4.64
教育工学 I	12	4.58
コミュニケーション社会学	43	4.56
教育コミュニケーション学 II	14	4.5
教育制度学	32	4.43
基礎心理学	21	4.38
霊長類心理学	11	4.27
経験社会学	17	4.25
教育心理学 I	26	4.19
教育人間学 I	27	4.15
人間科学特殊講義 II	10	4.11
教育文化学	47	4.09
現代社会学	26	4.04
人類学理論	35	4.03
国際フィールドワーク論 I	12	4.00

3-6. 担当教員からのコメント（2011年度 後期）

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である（教員名の五十音順に掲載）。

青野 正二
環境心理学・環境心理学特講Ⅰ
今年度は、耐震工事期間にあたり、昨年度までより収容人数の少ない教室で授業が行われ、登録者数が座席をやや上回っていた。そのため、教室が狭く授業を受けにくい面があったものと思われる。来年度も工事期間中であり、同じ部屋で授業を実施せざるを得ないため、もし人数が大きくなりオーバーするようであれば、パイプ椅子を持ち込むことで対応していきたい。また、特に学部生にとって、成績評価についての説明が足りなかったようであるが、この点については、シラバスに記述するだけに留まらず、ガイダンス（初回の授業）および授業の終盤（レポートあるいは試験の前頃）に伝えるよう努めていきたい。授業の理解度に関しては、昨年度に比べばらつきが大きかったように思われる。内容的には、少し踏み込んだものを取り入れたこともあったが、これについては、配付資料などで補うことを考えていきたい。

足立 浩平
多変量データ科学・行動データ科学特講Ⅰ
次年度は、大きい声で話し、明瞭な板書をするように心がけます。

Anna Dobrovolskaia
人間科学特殊講義Ⅳ
It was a great pleasure to teach this course this semester. The students enrolled in this course were highly motivated and committed to learning. Feedback received from the students during class suggests that the textbook selected for the course was seen as a useful basic reading material. Students taking the course seemed to enjoy participating in in-class discussions. Ensuring that sufficient time is provided for in-class discussion would be important when this course is offered next time.

石金 直美
臨床心理面接特講Ⅱ
特講と名が付いているが、実際は実習形式で行なっている授業であり、コメントを記す必要があるのか疑問である。

石川 真由美
社会変動論 ・ 社会変動論特講
アンケートからは事前によく準備をして、内容を理解してから授業に出席した様子が伝わってきます。一学期間で力は確実についており、さらに難易度の高い学習に取り組んでほしいと思います。

稲場 圭信
現代社会学
ほぼ妥当な回答であると思う。内容に「まあ興味が持てた」と「非常に興味が持てた」をあわせて96%、授業の方法や資料に関して「まあ良くできていた」と「非常に良くできていた」をあわせて8割弱。予習・復習の時間が必要のない授業であることは今後、検討したい。
現代社会学特講
ほぼ妥当な回答であると思う。内容に「まあ興味が持てた」と「非常に興味が持てた」をあわせて8割、授業の方法や資料に関して「まあ良くできていた」と「非常に良くできていた」をあわせて8割。現代社会の話題提供に重きを置いたが、体系立ては検討したい。学部と一緒に講義のため、院生には少し易しかったと思われる。

臼井 伸之介
リスク心理学・応用行動学特講Ⅱ
時間割の関係と思われるが、履修登録者127名、最終時間の試験受験者111名ととにかく出席者が多かった（そのうちアンケート回答者49名、回答率44.1%）。そのため、教室が狭い（ユメヌ教室）、板書の字が見にくいとの指摘があったが、これはいかんとも難かった。「全体の評価」では「普通」と「まあ良かった」がほぼ同数（それぞれ14名と15名）で「普通」が多かったことは反省材料である。来年はもう少しプラスに評価されるように工夫したい。

老松 克博
臨床心理学特講Ⅱ
この授業の内容にもともと関心のあった方も、それほどなかった方も、最後まで熱心に取り組んでいただき、感謝しております。「成績評価の基準が不明瞭」というご意見が多かったようですが、私自身は、この授業の内容は、受講生の皆さんに対する「成績評価」というスケールにはあまりなじまない気がしており、ほんとうは何か別の観点がほしいと思っています。なかなか思いつきませんが、質問タイムはたしかにもっと設けるべきでした。キリのいいところまで、と思っていると、気がついたときにはもう終わりの時刻になっていることが多かったです。申し訳ありません。できることなら、全体での質疑応答、討論に発展するところまで持って行きたいものです。

芋阪 満里子
認知脳心理学
スライドの文字などが見えにくいという指摘があった。来年度は、スライドの文字や図の大きさを工夫したいと思います。
心と脳の科学特講Ⅱ
興味が持てたことよかったです。来年度も、さらに内容を深めていきたいと思っています。

小野田 正利
教育制度学
シラバスに示しているとおりの、模擬裁判形式による授業であったが、当初は予想以上に受講者が多く（形式上は80名）、途中からは60名前後に減っていった。これはレポート発表（模擬裁判の役割）を果たせば、評価の基準をクリアすることを条件としたためでもあった。ただその中でも10人ほどの学生は、積極的に毎回発言を重ねるなど、授業に積極的に取り組んでくれたように感じた。今後は、出席評価もさることながら、途中の段階での中間レポートを課すなどして、学生の取り組みの姿勢を喚起することが必要と思うし、同時に現代的な課題を示すような判決例を選定する必要があると感じた。

金澤 忠博
比較行動心理学
1校時目の授業で朝早く後期で寒い日が多く受講生も大変だったと思う。その分最後まで受講してくれた人はモチベーションが高い人であったと信じたい。ビデオなど視覚教材をできるだけ活用して理解を促したつもりであったが、内容的には詰め込みすぎて消化不良になったのではないかと心配している。講義時間中に実際に体験してもらい課題を入れたり、毎回感想や質問を書いてもらい次の回にフィードバックするというやり方は受講生の反応も確かめられよかったですと思うので今後も継続したい。

河森 正人
動態地域論Ⅱ・動態地域論特講Ⅱ
授業の内容面では、比較的よい評価をいただいたと思う。来年度は事例の数をさらに増やし、比較の幅を広げていきたいと考えている。さらに、すべての学科目の学生が興味を持てるような内容にすべく努力していきたい。なお、技術面（話し方）で指摘があったので改善していきたい。
地域研究特講
基本的によい評価をいただいたと思われる。ただ、各教員の研究方法を十分に理解するには90分間では足りないのでは、教員の本を読む必要があると思ったとの意見があった。次年度の授業では、ぜひこの点を考慮に入れて授業を組み立てたいと思う。

吉川 徹
経験社会学・経験社会学特講
おおむね高い評価をいただいている。

熊倉 博雄
生物人類学
予習・復習がしやすいような授業設計に改善する必要があると感じている。現時点では、副読本の紹介程度にとどまっているが、もう少し気軽に取り組めるような課題を考えたい。また、程度についても、もう少し底上げをして専門性を高めた方がよいようである。

近藤 博之
教育と社会
回答している人は受講生の約半数に過ぎないが、回答内容は中間を挟んで両側に散らばっており、自分でもこんなあたりが妥当な評価かなと思う。内容的に少し難しかったかもしれない。授業中に意見のやりとりができるように、次回はもう少し工夫改善したい。

佐々木 淳
臨床心理学Ⅰ
アンケートの結果から、授業の目的はほぼ達成されたと考えられる。自由記述からは、ロールプレイがしやすい教室環境へのニーズや実際のクライアントの情報へのニーズが語られているため、来年度はより体験的な理解の促進や、実践に結びつける知見を多く取り入れることを念頭に授業を展開したい。

佐藤 真一
臨床死生学・老年行動学
本研究分野3名によるオムニバス授業であり、それぞれの専門分野の講義を行った。学生の評価はおおむね良好で、各教員の持ち味がでた講義であったと思う。入門編の授業なので、今後は、学生が主体的に関わる部分や、ディスカッションなども加えた授業に進化させたいと考えている。
臨床死生学・老年行動学特講Ⅱ
「臨床死生学・老年行動学」の大学院生によるアンケートの回答である。回答数は4名と少なかったが、大学院生は非常に熱心であり、成績も良かった。大学院生も参加する授業なので、今後は予習課題の導入を検討したい。
心理学測定（基礎科目）
オムニバス式の授業で、各教員がそれぞれの専門に関連した測定法の講義と実習を行うが、私の担当では基礎的な知識と技術の習得を目標に授業を行った。座学だけにならないように、グループディスカッションや心理検査などの実習も取り入れた。私語を続ける一部の学生グループ（5, 6名）があったが、学生の受講態度はおおむね熱心であった。3コマ連続の授業なので、学生の注意を持続させるための工夫がさらに必要と感じた。

心理・行動科学入門（共通教育科目）

社会心理学を専門とする教員と、臨床死生学・老年行動学を研究分野とする2名の教員による心理学および行動科学の一般教育のための授業なので、後者の私は主にパーソナリティと動機づけについてPPTを用いた講義およびビデオ視聴などを行った。昨年も私の専門の話をして欲しいとの要望があったので、1回分の講義のみそれに当てたが、今年のアンケートでも同じ要望があったが、これ以上の対応は困難である。学生によって回答が異なっており、一貫した傾向は伺いにくい。一般教育科目であるため、授業に対する構えが学生によって異なるのであろう。今後は、学生に対して主体的な授業への参加を促す工夫を行いたい。

澤村 信英**国際協力学Ⅱ・国際協力学特講Ⅱ**

発展途上国の教育、開発、国際協力をめぐる現状や課題を事例として取り上げながら授業を行った。学生の授業参加を促すため、今年度より文献講読を5回含めた。発表の方法および討論者をあらかじめ指定したりしたが、担当の学生以外はほとんど文献を事前に読んでいない様子であった。その結果、期待した議論は思うように進まず、学生の自主性に依拠した授業展開を見直す必要性も感じた。また、この文献には、情報量を優先し国際機関の報告書を主に使用したが、今後は学術論文を含めることにより、報告と論文の違いを認識させる機会ともしたい。全体として、授業内容は学生のニーズに合致していることは確認できた。

三宮 真智子**教育コミュニケーション学Ⅱ・教育コミュニケーション学特講Ⅱ**

教育コミュニケーション学特講Ⅱについて概ね良好な結果であり、また受講生の受講態度も申し分なく、特に問題はないと判断しました。教育コミュニケーション学Ⅱについては途中で受講を断念した人が回答者に含まれている問題点はあるにせよ、結果を踏まえて判断・意思決定した点は以下の通りです。

- (1) 授業内容をより高度なものにする。
- (2) 予習／復習のための課題を今後倍増し、そのチェックを厳しくする。
- (3) 講義室を変更する。(理由：東館106の映像機器は、他の授業や系会議で用いた時にもうまく作動しないことがしばしばあり、手間取るため。)

篠原 一光**適応認知行動学・適応認知行動学特講Ⅰ**

アンケート結果は可もなく不可もなくといったものだったが、次に述べるような改善点があることを認識している。今回の講義では前半部分に時間を取られすぎ、後半に予定していた内容の相当部分を実施することができなかった。毎回授業終了時にコメントを書いてもらって、次回にコメントに対応する内容を講義するという形をとっているため、予定した内容を消化する時間が不足してしまったように思われる。このため、次年度は講義内容を精選するようになりたいと考えている。また実習的内容について、準備したものの実施できなかった部分が残ってしまったので、必ず実施できるよう考慮したい。

志水 宏吉
教育文化学
予想していたよりもよい結果が出て、うれしく思う。今期の授業と重なって展開した、大阪教育条例案をめぐる現実の動きを随時追いかけたのが、今回の授業の最大の特徴であった。「授業に政治の話を持ち込むのか」という批判の声も一部あったが、受講生たちはおおむね熱心に講義を聴講し、そして議論に参加してくれた。手応えの残る半期であった。
学校社会学特講
アンケートに答えてくれたのが1人なので、それに対する論評は控える。この授業は、学部・院共通の科目として開講された。両者のニーズに合わせ応えることは容易ではないが、来年度の授業に共同参加してくれている他のスタッフ・TAとともに、よりよい授業のスタイル・中身を追求していきたい。

志村 剛
行動生理学・行動生理学特講 II
全体に出席率も高く、授業評価も概ね良好なようです。ただし、この授業内容に、はじめから関心が高い受講者の判断ではないかと思っています。パワーポイント主体の授業の進め方には例年通り注文があるようですが、教材の配布方法など次年度以降さらに工夫していきたいと考えています。本来なら、プロジェクターとホワイトボードを両用したいところですが、大半の教室ではその実施が構造上不可能なので、より良い方法を検討していきます。

高田 一宏
教育環境学概論（基礎科目）
様々な学部の学生が受講しているので、学生の関心や専門に応じた内容を提供するのが難しい。今後、コメントカードの活用などを検討したい。また、今年度は試験の日程を急遽変更して受講生に迷惑をかけた。連絡漏れなどが無いよう、十分に気をつけたい。
コミュニティ教育学
今年度初めて担当した。難易度は高くなく内容は理解できたという評価をもらった。しかし、学生が求めていたものと授業内容は必ずしも一致しなかったようだ。初回にアンケートをとるなどして、授業に対する要望や期待を把握しようと思う。

千葉 泉
実践的文化交流 II
本年度は、授業ごとに報告書を出してもらい、受講生一人一人のウクレレの技能修得状況を把握すると同時に、授業に対する要望に応えられるように努めました。それでも、難易度に関する偏差が見られるほか、関心の喚起に関する若干の不十分な評価が出ているので、来年度は、練習曲の選出等に関して受講生の要望を取り入れるなど、さらに努力したいと思います。

辻 大介
コミュニケーション社会学
今年度も概ねよい評価で、うれしく思います。内容が多すぎ、広範すぎるのではという指摘もいただきましたが、これは確かにその通りで、一つ一つのトピックをもう少しゆっくり取り上げたという気持ちは私自身もあります。講義内容の一部を予習（自主学習）にまわすというのが一つの手だろうとは思いますが、映像教材を使っているとなかなかそれも難しいところがあり、思案中です。最終課題のレポートを公開してほしいという要望は前向きに検討します。確かにおもしろい内容のレポートも多々ありますので。すべてのレポートをオープンにするのは無理ですが、提出者の了承が得られたものからいくつか選んで、講評をつけて講義の最終回でフィードバックする、とか、何かやり方を考えてみます。
堤 修三
社会保障政策論Ⅱ・社会保障政策論特講Ⅱ
1学期・2学期を通した講義ですので、本来は両方を聴いていただきたいところでした。講義の眼目は、社会保障の各制度を支えている基本的な考え方を知ることであり、各制度の具体的な細かい内容ではありません。それによって、様々に話題となる制度・政策議論を自分で考え、判断できるようになってもらうことがねらいでしたが、概ねその狙いは達成することができたように思います。
Don Bysouth
人間科学特殊講義Ⅰ
Students enjoyed the use of case studies and simulations of real world conflicts, multimedia presentations and group activities and this will be further developed for future course delivery. Some students indicated that they had some issues with English delivery, and this will be addressed for future course delivery. Overall students gave very positive feedback on the course and felt it was a useful course for those interested in international relations, conflict resolution and global inequality.
中川 敏
人間と文化・人間と文化特講・人類学理論・人類学理論特講
だいたい思っていたとおりだった。
中道 正之
霊長類心理学
毎回 25 名ほどの出席者で、アンケートの回答者数が 11 名、そして、授業を全体として「まあ良かった」、「非常に良かった」の回答者が 11 名のうちの 10 名であった。回答者が半数しかなかったということ、反省材料に、授業改善を考えたい。また、誰ひとり授業の難易度を、難しいと感じていなかったことは、易し過ぎる授業であったともいえるので、次回からは、少し難易度を高めた授業にしてみたい。

比較行動学特講Ⅱ
回答者は3名のみであったが、全員が授業を全体として良かったと判断してくれており、安堵。受講者とアイデアの交換ができるような授業内容にさらに改善していきたい。

中村 安秀
医療通訳とコミュニティ
おおむね満足された結果をいただいたと理解している。木曜日の2限に、106教室を使用した。暖房があまり効かないという苦情が見られた。外からの風が直接吹き付ける構造上の問題もあるが、教室の暖房対策について、次年度の改善を望みたい。
ボランティア論（共通教育科目）
おおむね、満足したという回答が多かった。ただ、全学共通教育科目の他の科目との比較という点では、較べる材料がなく、相対的な評価の位置がわかりにくかった。

中山 康雄
認知システム論・認知システム論特講
講義のプレゼンテーションの工夫に関する要望があった。また、講義内容が難しすぎるという意見も多かった。今後の反省材料としたい。

服部 憲児
高等教育論特講
受講人数に見合わない教室であったにもかかわらず、回答いただいた方からは高い評価をいただいているので、安心しました。受講生の意識も高かったため、来年度からはより高度な内容も盛り込もうと思っています。

檜垣 立哉
表象・記号学特講
回答者が1名だけなのでその内容についてはコメントしがたいが、基本的に学部ゼミとしておこなっていたものであり、大学院生にとっては初歩的なものにつつまかもしれない（とはいえ大学院生の出席者は存在していたかどうか定かではない・・・）。
生命と社会システム特講Ⅱ
大学院で演習科目として行っていて、回答者がいないのでコメントしがたいが、基本的に映像と表現に関する演習であり、参加者の意向には答えていたとおもう。が、今期は少し進みが遅かったという反省はある。

平沢 安政
生涯教育学
授業へのコメントをありがとうございました。受講生の65%から「良かった」「非常に良かった」との評価をいただき、少しホッとしました。授業内容が少し盛りだくさんだったので、少し難しいと感じられたかもしれませんが、人権教育の視点からみた生涯教育の概要については、ほぼ扱うことができたと思っています。今後も、人権教育や生涯教育に対する関心を持ち続けていただければと願っています。
生涯教育学特講
回答をいただけたのが一人だったのは残念ですが、どの項目も高く評価いただいてよかったです。大学院生にとっては、少し内容が平易すぎたかもしれませんが、人権教育の視点からみた生涯教育の課題や展望について、基本となることがらを理解していただけたのでしたら、幸いです。今後も、人権教育や生涯教育への関心を持ち続けていただくことを願っています。

Fiona Creaser
人間科学特殊講義Ⅱ・人間科学特殊講義Ⅲ
I was pleased with the results.

福岡 まどか
実践的文化交流Ⅱ
アンケートの中にあつたように、この授業がきっかけとなって、楽器やダンスに関心を持つことができ、友人とも楽しむことができれば、非常に嬉しいです。ご指摘のあつたようなこのタイプの授業に関するアンケートの是非についてはたしかに難しい問題だと思います。ですが今後の授業をより良くしたいという教員側の観点からは、受講者の皆さんからのコメントは大変参考になります。授業中に出して頂いたコメントも参考にしつつ、今後の授業のやり方も引き続き考えていきたいと思っています。
地域知識論Ⅱ・地域知識論特講Ⅱ
アンケートの方には記述式の回答はありませんでしたが、この授業全体を振り返ってコメントを記述します。この授業は、地域に根差した視点から、さまざまな知のあり方を対象として、グローバル化する現代世界の中でそうした知のあり方がどのような変化を遂げているのかという問題を扱いました。第2 Semesterの授業では特に食や環境などを取り上げてこうした問題を考察しました。やや難しいテーマではありますが、今後も具体的な事例を取り上げつつ、受講者の皆さんに関心を持ってもらえるような授業のやり方を心がけていきたいと思っています。映像資料や写真なども多用して、抽象的思考と具体的な事例とが提示できるような授業を目指していきたいと思っています。

藤岡 淳子
教育心理学Ⅰ
参考にします。

藤川 信夫
教育人間学Ⅰ・教育人間学特講Ⅱ
平成22年度のアンケート結果を踏まえ、とくに第1学期の講義では予習を前提とする授業形式に変更したが、ある程度その成果は出たように思う。また、すでにこれまでも行ってきたことだが、講義最後にコメントカードを配布し、次の講義の冒頭で学生からのコメントに答えるという形式は非常に好評であり、講義内容の理解を促しているように思う。しかし、前期後期を通じて、耐震工事関連で適切な教室の確保が困難なこともあり、教室後部の学生にとってはプロジェクターに映された文字が読みづらい、教室の温度が適切でない等の問題が出たように思う。いずれにしても、今年度のアンケート結果を踏まえ、また、環境条件の変化に応じたかたちで、次年度の講義についても改善努力を続けていくつもりである。

前迫 孝憲
教育工学Ⅰ
幅広い内容をオムニバス形式で、協働学習法なども取り入れて実施した。難易度は適切だったようで、授業はほぼ理解できたようであるが、予習・復習にほとんど時間を割いておらず、今後の課題と考えられる。
コミュニケーションメディア特講Ⅱ
幅広い内容をオムニバス形式で、協働学習法なども取り入れて実施した。難易度は適切だったようで、授業は理解できたようであるが、予習・復習にほとんど時間を割いておらず、今後の課題と考えられる。

宮原 暁
超域地域論Ⅱ
アンケートへの回答ありがとうございました。大変興味を持ったという意見と、科目に対してあまり興味がそそられなかったとのご意見に分かれており、受講者の志向によってはなかなか受け入れにくい部分もあったのかと反省しております。おそらく後者のご意見は、理論的な何かを求めているのではないかと思いますので、来年度はその点についても少し詳しく説明を加えたいと思います。
超域地域論特講Ⅱ
アンケートへの回答ありがとうございました。少ない回答数でしたが、概ね授業の主旨を好意的に評価していただけたのではないかと考えております。本科目は学部生向けの超域地域論としても開講しておりますが、両者の間で主旨と期待に対して大きな隔たりが見られました。この点、どちらのニーズにも沿うように今後とも改善の努力を続けていきたいと考えております。
国際フィールドワーク論Ⅰ
アンケートへの回答ありがとうございました。講義の主旨が理解しにくかったとのご意見に即して、この点での改善をすすめたいと思います。

フィールド調査・評価入門

アンケートへの回答ありがとうございました。多くの方が大変興味深かったとのご意見を寄せており、一応、本演習は成功したものと考えております。ただスケジュールの問題についてご指摘があり、この点は改善したいと思っております。また、本科目は学部生向けの国際フィールドワーク論としても開講しておりますが、両者の関心のあり方は大きく異なっており、その調整も課題としたいと思っております。

牟田 和恵**家族社会学**

参考になりました。授業の準備学習をどのように動機づけていくかが今後の課題だと感じました。

家族社会学特講

2名のみのお返事ですが、高い評価を得ることができ、よかったです。受講者とのフィードバックに努めたのがよかったのかと感じています。

村上 靖彦**現代思想論・現代思想論特講**

耐震工事のために教室が確保できず毎回椅子を他の部屋から持ち込んで授業をすることになり、迷惑をおかけしました。それでも登録者全員が入室することはできない状況でした。(ただし多くの方は非常に出席状況が良かったと思います) 板書など改善点の必要を感じました。

森川 和則**基礎心理学**

履修登録者は50名ほどですが、アンケート回答者が21名ですので、必ずしも全体の意見ではないかもしれませんが、質問「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」に対し、「まあ良かった」が7名、「非常に良かった」が11名でした(平均値4.38)ので、総合的に好評だったと思われます。授業内容の難易度についても回答者20名中17名が適切と答えているので、変更する必要はなさそうです。予習・復習は「ほとんどやらなかった」と答えた人が21名中15名いましたが、宿題を課すことが良いかどうかわかりません。授業の進め方について、少数ながら「話し方が明瞭でない」が2名いました。教室にマイクがないのも理由の一部だと思いますが、来年度は滑舌を改善したいと思います(歯が1本抜けただけでずいぶん話しにくくなりました)。

基礎心理学特講 II

質問「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」に対し、平均値4.25でしたので、総合的に好評だったと思われます。ただし、不満点として「授業に関して質問する機会がなかった」というコメントがありました。質問はいつでも受け付けていたのですが、もっと質問しやすくするために来年度は毎週授業の終わりに質問の時間を設けたいと思います。